

府中市健康地域づくり審議会
第6回次世代創造分科会 報告書

- 1 日 時：平成26年3月26日（水）13：30～15：00
- 2 場 所：府中市役所2階第2応接室
- 3 出席者：谷 秀 樹（分科会会長） 板 橋 千代美（分科会副会長）
吉 原 純（分科会委員） 平 地 緑（分科会委員）
宗 藤 正 典（分科会委員） 下 澄 子（分科会委員）
藤 井 敬 子（分科会委員）
山 上 秀 樹（府中市教育委員会学校教育課）
徳 毛 恵 子（府中市子育て支援センター）

4 概 要

- (1) 開 会
- (2) 分科会長あいさつ
- (3) 議事「府中市子ども・子育てに関する市民アンケート調査」集計結果について

①アンケート集計結果の説明

②質疑・意見交換

【主な質疑・意見】

委員；アンケート回答者のうち、父母のどちらかが就労していない割合はどのくらいか？

事務局；3割弱の母親が就労していないと回答している。

委員；量の見込みは、施設の定員が適切かを精査するためのものか？

事務局；ニーズと実績を踏まえて事業量を設定していく。

委員；病児・病後児保育について、ニーズと現状の利用が大きくかけ離れているが、一方で「利用したいとは思わない」人も多い。その理由は何が考えられるか？

委員；親心もあり、子どもがしんどい時はそばに居てやりたいという思いもある。

委員；ファミリー・サポート事業について利用者が少ないがどうか？

行政；ファミリー・サポート事業の利用者は減ってきている。就学前のお子さんにおいては、保育所等での一時預かりの利用が増えた関係で利用件数が減ったと思われる。学童保育で延長利用ができなかったり、長期休暇中には普段より遅く学童がスタートするため、その時間にファミリー・サポート事業を利用される方は多い。依頼会員が提供会員を信頼しきれていないこともある。

委員；学童保育については、利用者個人々のニーズに柔軟に対応してくれない。

委員；保護者は就学前の時期よりも小学校低学年の時期に対応を困られている。

委員；学童保育で要件を満たしていないが、個別の事情を理解して受け入れていただ

いたケースが今年度もあった。就学前後の対応の温度差を保護者は感じている。
行政；お子さんを見る人がいない場合は受け入れているが、祖父母などいらっしゃる場合はうけいれないことがある。

委員；祖父母がいるから一概に断るというのではなく、多少の微調整が必要では？

委員；個別に事情を聞いてあげないと判断できないことは多い。少数派の意見も聞いて、細やかに対応することで親は安心できる。

委員；少数派への対応がさまざまな場面でブロックされていると感じる。制度から外れてしまう人にも支援が行き届く緩いルールがあればよい。

事務局；子育て支援コーディネーターの配置が重要であるといえる。ファミリー・サポート事業では、依頼会員と提供会員との交流を行っている自治体もある。

委員；祖父母世代と子育て世代との交流が少ない。「いきいきサロン」に学童をくっつけることはできないか？あさひ児童館にも高齢者が多くいる。児童だけが出入りするのではなく、みんなが集まれる場所が重要。

委員；サロンを通じた異世代交流はこれからの姿のひとつであり、興味深い。

委員；アンケートで不満と答えた少数派の不満にも細かく対応する必要があるのでは？

事務局；数字だけでは現状をはかることはできない。こうした意見に基づいて今後の対応を検討していきたい。先駆的な事例も取り入れられるところは取り入れたい。

委員；公民館等、身近な場所で子どもを預かってくれるところがあればよい。

委員；府中市では3歳以上のお子さんを親の就労に関係なく全て受け入れることが基本方針としてあると思うが？

事務局；そのような基準を市として持っている。新制度となっても、そのような考え方が変わるわけではない。

委員；土曜保育を必要と答えている人にも、本当は子どもと一緒にいたいと考えている人が多いと現場でも感じる。また、そうすべきだとも思う。

委員；フルタイムを希望する方も増えている。

委員；生活水準が向上して、それを下げられない家庭が多いとも感じる。

事務局；「子どものため」という視点を持つべき。親育てにも力を入れるべき。ニーズばかり追いかけるのではなく、またニーズが出てこない少数派にも支援が必要である。見極めが難しいが対応しなければならない。

委員；支援センターには子育てママの先輩たちが多く、安心して話ができるし、ほっとする。一方で、本当に必要な人、孤立している人が利用していない。定期的に誰もが顔を合わせる幼稚園や保育所等の先生が保護者の状況を一番理解されているのではないか。人に甘えるのが苦手な人にこそ支援の手を向けてあげたい。

事務局；地域や行政が一体となって、連携することが大切。

委員；保育所が相談に乗ってあげることがとても大切だと実感している。一方で、通常業務もあるので、なかなか話を聞いてあげられない。専門的に話を聞いてあげる人が必要。話を聞いてあげるだけで深みにはまらず救われることもある。

委員；少数派の意見をどれだけ拾いあげられるかが、やはり大切。今日は女性の意見ばかりが目立ったので、男性の意見や思いも最後にいただいたければと思う。

委員；アンケートは広く浅い結果になりがちなため、どこに焦点を当てて議論するかがとても難しい。その中で、ひとつ気になったのは子育て支援センターと子育て支援コーディネーターの活用。支援センターや保育所がコーディネーター機能を持つのは現実的に不可能なため、役割分担と役割の明確化が重要。支援センターの利用率が低いのも勿体ないので、周知を工夫していく根気強く、仕組み化して行うことが大切ではないか。

事務局；横浜市ではコーディネーターを専門に置いている。保育所の先生が対応するのは、やはり現実的に難しい。

委員；今は退かれたが、以前府中市の保育所に、相談にのってくれる、話を聞いてくれる素晴らしい先生がいた。そうした先生を活用できないか。

委員；支援センターは充実してきていると感じる。ちょっとした話を聞いてあげてくれると保護者の方も嬉しい。